

《学校教育目標（中・長期的目標）》

生徒一人ひとりの生きる力を育む教育の推進

学校像

- ・夢多き学び舎
- ・豊かな文化の源泉
- ・磨き合う人づくりの場
- ・国際化に対応できる人づくりの場
- ・若人の心の故郷

目指す生徒像

- 自主 理想を掲げ継続的に学習する生徒
自ら考え判断して行動する生徒
- 協調 他人の立場を理解し自発的に協力する生徒
明朗で奉仕的・積極的に勤労する生徒
- 礼節 礼節をわきまえ心身ともに健全な生徒

教師像

- ・敬愛され、信頼される
- ・生徒一人ひとりのよさを引き出す
- ・指導力の向上に努める
- ・組織の一員としての自覚に立つ
- ・常に工夫・改善する

平成 20 年度学校教育の目標（単年度目標）

目標を持ち主体的に自己を高める生徒の育成

《学校経営の最重点課題》

コミュニティ・スクールの実現に向けた開かれ・信頼される学校づくり
地域連携を深める教育活動を基盤とした活力ある学校

目指す生徒像実現のための課題

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| (1) 理想を掲げ継続的に学習する生徒 | 追求・探求に向かう <u>学習意欲の向上</u> |
| (2) 自ら考え判断して行動する生徒 | 的確な判断による <u>発表力の向上</u> |
| (4) 明朗で奉仕的・積極的に勤労する生徒 | 心を実践に移す <u>行動力の向上</u> |

郷土美和を愛する創造的で心豊かな人材づくり

学校運営協議会（研究推進委員 13 名）

- 学校運営の点検と地域連携活動の推進

学校情報の発信

地域の情報の収集

広報部

事業部

校内研修

確かな学力づくり

- ・授業研究と地域公開
- ・小・高との連携
- ・授業評価の工夫
- ・学力向上プラン推進

豊かな心づくり

- ・体験活動を生かした授業の推進
- ・道徳授業の家庭との連携
- ・環境美化活動
- ・掃除に学ぶ会との連携

健やかな体づくり

- ・食育の推進
- ・自主的な健康管理
- ・小学校と連携した食生活の見直し
- ・美和駅伝

地域とのふれあいを通した生き方づくり

- ・職業講話
- ・職場体験学習
- ・郷土学習「美和を学ぶ」
- ・保育実習

生徒会活動による美和中文化の創造（規範意識や連帯感の高揚）

- ・月頭集会の充実
- ・朝夕の校歌斉唱と校旗の掲揚
- ・チャレンジ目標の推進

美和中学校サポーターによる教育活動の支援（地域共育意識の醸成）

《美和中コミュニティ・スクール運営組織》

学校教育目標 生徒一人ひとりの生きる力の育成

＜学校経営の4つの柱＞

確かな学力づくり

- ・授業研究と地域公開
- ・小・高との連携
- ・授業評価の工夫
- ・学力向上プラン推進

豊かな心づくり

- ・体験活動を生かした授業の推進
- ・道徳授業の家庭との連携
- ・環境美化活動
- ・掃除に学ぶ会との連携

健やかな体づくり

- ・食育の推進
- 自主的な健康管理
- 食生活の見直し
(小学校との連携)
- ・美和駅伝

地域とのふれあいを 通した生き方づくり

- ・職業講話
- ・職場体験学習
- ・郷土学習「美和を学ぶ」
- ・保育実習

美和未来プロジェクト

推進コンセプト 郷土美和を愛する創造的で心豊かな人材づくり

学校運営協議会（研究推進委員13名）

- 学校運営の点検と地域連携活動の推進
- ・広報活動の推進
- ・連携事業への推進

4つの事業委員会

まなびコミュニティ

○学習意欲の喚起

- ライオンズクラブ代表
- 運営協議会地域委員
- 運営協議会PTA代表
- 教職員

こころコミュニティ

○生活習慣の向上
倫理観・規範意識育成

- 更生保護女性会代表
- 老人会代表
- 民生児童委員協議会
- 運営協議会地域委員
- 運営協議会PTA代表
- 教職員

けんこうコミュニティ

○健康・体力向上への
意識改革

- 婦人会代表
- 農業委員会代表
- 運営協議会地域委員
- PTA役員
- 教職員

いきかたコミュニティ

○美和の理解の深化
生き方支援

- 職業講話講師代表
- ふるさとづくり推進協議会代表
- 運営協議会地域委員
- 運営協議会PTA代表
- 教職員

美和中学校サポーターによる教育活動の見守り（地域共育意識の醸成）

- ・民生児童委員協議会
- ・婦人会
- ・更生保護女性会
- ・老人会
- ・ライオンズクラブ
- ・ふるさとづくり推進協議会
- ・農業委員会
- ・その他 個人

学校運営協議会情報誌『コミスク』

1 情報誌コミスクの発行

地域に学校を開き地域の協力を得るには、学校からの情報発信が大変重要な役割を持つ。学校運営協議会においても、広報活動の重要性が議論され、運営協議会内に広報部を立ち上げコミュニティ・スクール情報誌を発行し全世帯に配布することになった。情報誌名は西村会長の提案で『コミスク』とした。美和町という地域が高齢者社会ということをもふまえ、お年寄りにも読みやすい広報誌を目指すことになり、

- ・用紙サイズはA4、2ページ（裏表印刷）にする。
- ・文字フォントは12ポイントにする。
- ・行間を空ける。
- ・難解な教育用語はできるだけさける。
- ・行事の紹介の他、運営委員（学校関係者を除く）のコラムを入れる。

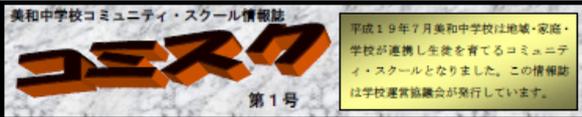
等を決めた。発行回数は年4回とした。当初は、カラー版での発行を目指したが、予算を獲得することができず残念ながら現在まで学校の印刷機を使用し白黒印刷で作成、配布している。

2 第1号の発行と配布

第1号を平成19年11月に発行することを目標に運営委員会広報部で協議に入った。学校と地域が共同で広報誌を作成する、という経験がお互いにないため、原案を学校側で作成し運営委員会で検討していくことになった。ここで苦労したのは、学校広報誌との違いをいかに表現するかである。学校行事の紹介が中心であるため、学校日より（舎窓）、各学年日よりと掲載記事が重複してしまうのは避けられず（場合によっては写真も）、学校広報誌を2重に発行することになりかねない。この点を解決したのは、学校運営協議会委員（または行事に参加された地域の方）のコラムである。『コミスク』には必ず2つコラムが掲載されており、その執筆者がよく知っている美和町の住人であることがこの広報誌をより身近なものへと変えているように感じられた。したがって『コミスク』では、できるだけコラムが目立つように配慮している。

このようにして、運営委員の方の意見を取り入れながら、平成19年11月15日、美和町全世帯（約2000世帯）に『コミスク第1号』が市報と共に配布された。A4サイズで、他のチラシと比べあまりきれいでない白黒印刷の広報誌で決して目立つ存在ではないが、発行を重ねるにしたがって徐々に地域に浸透してきているように思われる。

第1号（平成19年11月発行）



美和中学校コミュニティ・スクール情報誌
コミスク
第1号

平成19年7月美和中学校は地域・家庭・学校が連携し生徒を育てるコミュニティ・スクールとなりました。この情報誌は学校運営協議会が発行しています。

コミュニティ・スクールって何？
今、全国の学校で注目されている取組がコミュニティ・スクールです。
コミュニティという言葉は地域社会という意味を持っています。地域社会が支える学校という意味です。言い換えると、地域社会にいるすべての人の力を借りて、その地域の子供たちを育てて行こうという考えに立った学校ということです。
従って運営の仕方が従来の学校と異なります。運営の中心は学校運営協議会という組織です。



第1回学校運営協議会
校長が学校運営の方針を説明しています。それに先立ち岩国市教育委員会から委員の委嘱状交付がありました。

学校運営協議会のメンバー
学校運営協議会は12名の委員で構成されています。

【会長】 西村久道	【副会長】 片岡勝剛
【委員】【地域代表】 上村由美子 三上勝子 恩田照代	
【保護者代表】 安田皓一 大原健児 西浦さゆり	
【学校代表】 校長 布施安浩 教頭 千東恭弘	
教務主任 藤本哲夫 研修主任 山田文明	

「聞かえてくるよ。みんなの声。つくろうよ。みんなの学校。」 会長 西村久道
この度、美和中学校が文部科学省の指定を受けて、「コミュニティ・スクール事業」に取り組まれることとなり、この事業の推進のための組織「学校運営協議会」のお手伝いをさせていただきますことになりました。
私たち協議会の委員は、校長先生の学校経営のご方針を踏まえ、学校・地域・社会が一体となって、より良い教育の実現が迅速に、的確に行われるように、また、地域の相違工夫を生かした特色ある学校づくりが進むことで、美和町全体の活性化も期待できる。こうしたことを目標におきながら、「学校と家庭・地域の橋渡し役」となれたらと考えています。未来に羽ばたく生徒たちに、皆様方のご意見・ご協力をお願いいたします。

【コミュニティ・スクール解説】
法律に規定された学校運営協議会を設置する学校をコミュニティ・スクール「地域運営学校」といいます。岩国市は新たに岩国市学校運営協議会規則を定めて美和中学校を指定しました。全国の公立小・中等学校で213校指定、県内で5校（H19.7.1）



学校運営協議会は地域と学校を結び架け橋です



3 今後の課題

発行も5回を数え、前述したように広報誌として徐々に浸透してきているように思われるが、いくつかの課題も見えてきた。一つは、『Comisaku』の作成が担当者一人に委ねられている点である。本来なら運営委員の共同作業の中で広報誌を作成していくことが理想であるが、広報部会を度々開くことも難しく、月1回の運営協議会では作成された原稿を検討することが精一杯である。二つ目は、やはり広報誌としては目立たない存在、という点である。市報と共に配布されるチラシは多く、その中では地味な存在である。いかに目立つものに変えていくかが課題である。ただ、第6号をA4サイズからA3サイズに拡大して発行することが決まっており、一つの方法かもしれない。三つ目は、年4回の発行が広報活動として十分であるか、という点である。運営協議会の中で、企画の検討→原稿の校正→印刷→市報と共に配布、という手順をふまえるとどうしても年4回のペースを変えることはなかなか難しい。ただ、何かを変えないといけないのは確かである。

以上のように、発行重ねるにしたがって課題も見えてきている。そこで、『Comisaku』の発行がより広報活動として意義あるものにしていくため、組織の運営を含め今後検討していきたい。



平成21年度『美和学』

1 ねらい

- (1) 進路学習の一環として、地域の先人たちとの交流を通して自分の将来を見つめ、自分の生き方を考える。
- (2) 美和の産業・歴史・伝統を学ぶことで、美和に誇りを持ち将来美和の発展に役立ちたいという意欲を育てる。
- (3) コミュニティ・スクール実践活動の一環として、地域の人材を活用した授業や行事、生徒が地域に向いての活動等を行い、その体験を通して学校と地域・保護者一体となって育てられているという意識を育てる。

2 年間活動計画

学年	美和の産業を学ぶ	美和の伝統・歴史を学ぶ	美和の先人から学ぶ
1年	稲作を学ぶ（総） 田植え体験（5月） 稲刈り体験（8月） 美和の産業を学ぶⅠ（社6月） （美和茶・養蜂・竹炭・岸根栗）	美和の地理を学ぶ（社11月） 美和の伝統芸能を学ぶ（音10月）（山代神楽） 郷土料理を学ぶ（家2月）	トイレ掃除に学ぶ（総9月） 文化祭合同合唱（音10月） 餅つき会（課外12月） 職業講話（総2月） 福祉ボランティア（行3月）
2年	茶摘み体験（5月） 美和の産業を学ぶⅡ（社6月） （美和茶・養蜂・竹炭・岸根栗） 職場体験学習（総11月）	美和の歴史を学ぶ（社12月） 美和の伝統芸能を学ぶ（社5月～1月）（秋掛太鼓） 郷土料理を学ぶ（家6月） 岩国往來を学ぶ（社2月）	トイレ掃除に学ぶ（総9月） 文化祭合同合唱（音10月） 餅つき会（課外12月） 進路講演（総2月） 地域清掃ボランティア（行3月）
3年		美和の自然を学ぶ（理6月）	高校生に学ぶ（課外8月） トイレ掃除に学ぶ（総9月） 文化祭合同合唱（音10月） 保育実習（家12月） 保育講話（家1月） 郷土を愛する心（道徳6月）
<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>まとめ『美和と自分の将来像を考える』 （地域の方とのディスカッション）</p> </div>			

【総→総合的な時間 社→社会または選択社会 理→理科 音→音楽または選択音楽 行→行事】